

市民講座 ベラルーシ甲状腺専門医講演会 「25万件の検診をしてきた医師の話」 in 福島



今から33年前の1986年4月26日、ベラルーシとの国境付近にあるチェルノブイリ原子力発電所（ウクライナ）で原子力開発史上最悪の事故が発生しました。大量の放射能の雲は、ウクライナやベラルーシの地面を強く汚染させることになりました。汚染地域は、海から遠く離れているため慢性的なヨウ素不足の地であったことが災いし、汚染された牧草から牛を介してミルクに移行した放射性ヨウ素を取り込んだ子供たちには小児甲状腺がんが多発しました。今回は、もっとも被害の大きかったベラルーシから専門医を招き、現地の甲状腺がんの過去・現在をお話し致します。

と き 5月18日(土) 午後1時30分～4時00分 (開場 午後13時00分)
ところ チェンバおおまち 3階 多目的ホール
福島市大町4-15

※ 専用の駐車場がありませんので、自動車ですらっしゃる場合は近隣の有料駐車場をご利用下さい。

内容

講演 グリゴローヴィッチ医師 「なぜブレスト州が甲状腺検診を成功できたのか」
シヴィタ医師 「移動検診の現在の動向」
ルシク医師 「ベラルーシにおける最新の治療と診断」
通訳 山田英雄さん (ロシア語医療通訳・NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク医療顧問)
解説 木村真三さん (獨協医科大学准教授・放射線衛生学者)

※ 講師のプロフィールは裏面をご覧ください。

主催 NPO法人ふくしま30年プロジェクト (連絡先) 電話 024-573-5697

NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

ホームページ <https://fukushima-30year-project.org/>

申し込み ① FAX 024-573-5698 ② 申込フォーム https://fukushima-30year-project.org/?page_id=7862

後援 福島市 福島市教育委員会

申し込み
QRコード



入場無料・申し込み先着順で定員になり次第終了となります

講師プロフィール



グリゴローヴィッチ・アルトゥール医師（ブレスト州立内分泌診療所所長）

[姓・名]

1967年生 内分泌科専門医（甲状腺・糖尿病） 赤十字移動検診プロジェクトのスタッフとして、2011年までにチェルノブイリ被災地であるベラルーシ共和国ブレスト州にて年間15,000人の甲状腺がん検診を実施してきた。甲状腺検診者数25万人以上と世界的にもトップクラス の症例数を誇る。



シヴィタ・ウラジーミル医師（ブレスト州立内分泌診療所移動診断室室長）

1960年生 ブレスト州立内分泌診療所スタッフ。内科医、超音波診断専門医 1年のうち2/3を移動検診で州内各地で検診を行っている。甲状腺検診者数25万人以上と世界的にもトップクラスの症例数を誇る。チェルノブイリ原発事故の初期からを知る現場の医師。



ルシク・マキシム医師（ベラルーシ国立卒業後教育医学アカデミー内分泌学講座准教授）

1979年生 内分泌学医、超音波診断医、麻酔・蘇生術医、分子生物学(長崎大にて2006年習得) 内分泌疾患・代謝疾患・腫瘍疾患に関連した発がんのメカニズム研究、甲状腺がんの初期診断の方法論改善、診断・治療アルゴリズムの開発を行う。

通訳 山田英雄さん（NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク 医療顧問・ロシア語医療通訳）

1947年生 広島出身の被ばく二世。幼い頃から原爆の後遺症で苦しむ母の姿を見続ける。高校卒業後モスクワのパトリス・ムルンバ民族友好大学医学部に進学。旧ソ連の医師免許を取得する。

共催 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

1990年に九州のボランティアらが「チェルノブイリ支援運動・九州」の名で設立。現地への医師派遣や医療機器の支援などを続けてきた。検診活動にもかかわらず、広島大学、日本医科大学などの甲状腺外科の検診団を派遣。97～10年に甲状腺がんの恐れがあるとして精密検査をした住民は1256人(うち8割が女性)にのぼる。これらの功績により、2013年には、公益法人社会貢献支援財団より、社会貢献者賞を受賞。

FAX申し込み用紙

申し込みいただいた個人情報は受付以外には使用いたしません。
おところは、県内なら市町村名、県外なら都道府県名で結構です。

おところ

お名前

連絡先